

地域や家庭とのつながりが支える

小学校の特色のある取組



1 運動場芝生化促進事業（南小） 2 技能体験教室（平野小） 3 全校一斉行事（東小）
4 勤労感謝活動（田原本小） 5 大学との連携（北小）

町内の各小学校では、児童や地域の実態などを踏まえ、一人ひとりの個性を生かす教育を推進し、新しい学びの創造と特色のある教育活動を展開しています。

そこで、今月号では、各小学校の特色のある取組を紹介します。

町教育委員会では「感謝の心でいきいきあいさつ 心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を指導の重点として、組織的・計画的な取組を進めているところです。

そして、子どもたち一人ひとりの個性を生かし、個に応じたきめ細やかな教育実践を積み重ね、「魅力と活力ある幼稚園・学校づくり」を基本に据えて取り組んでいます。

各小学校では、児童の実態を踏まえつつ「人権教育」を重視し、家庭や地域との連携・協働を大切にして、未来を切り拓く「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成、これを支える「健康でたくましい心身の育成」を目指し、特色のある教育活動を展開しています。

さらに「地域と共にある学校づくり」を目指し、家庭や地域の参画・協働を通して地域教育力の向上を図る取組をより一層進めています。

そのなかで特色のある取組を、小学校ごとに紹介します。



サマーチャレンジスクール



▲ニュースポーツを体験する



▲みんなで夏休みの宿題をする

東 小学校では「サマーチャレンジスクール」と称して、毎年8月の1週目の午前中に体験学習を行っています。

この取組は、夏休みに子どもたちが自主的に学校へ集まり、楽しい思い出を作ったり、生活の点検をしたりする機会をもち、学習や生活の指導・支援をすることを目的としています。

子どもたちは、工作やビデオ鑑賞、夏休みの宿題やニュースポーツなどの学年に応じた活動を楽しみ、生活の基礎を身に付けていきます。

夏休みは子どもたちにとってさまざまな体験をし、人間として大きく成長できる期間です。

普段の授業では体験する機会のないニュースポーツなどを、地域の人のご協力を得て教えてもらえる貴重な時間となっています。

また、1学期に学習した内容を、長い休みの間に忘れないように復習することで、学力の定着につなげています。

内容は毎年、先生方の創意工夫とアイデアでもとても楽しいものとなり、年々、参加率も上昇しています。

地域との連携



▲萩原農場を見学し、栽培の説明を受ける



▲スイカの収穫をする

北 小学校では、地域と連携してさまざまな取組を行っています。

その取組の一つとして、スイカやメロンの品種改良を行っている萩原農場（法貴寺）のご協力を得て、栽培体験をしています。

4年生では、スイカやメロンの栽培を体験し、交配の勉強をしています。6月初旬に萩原農場の人に来てもらい、スイカやメロンの受粉を体験します。

その後、児童がプランターでスイカやメロンを大切に育て、7月初旬に収穫し、それをみんなで味わいます。

栽培体験を通して、食の大切さを学んでいます。

3年生では、10月ごろに萩原農場へ行き、ハウス栽培を見学しています。見学では、スイカやメロンの栽培方法や工夫を聞き、地域との交流を深めながら学習を進めています。

この他にも、地域のいろいろな大人が学校の教育活動に関わることで、多様な体験や経験の機会が増え、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながっています。

幼稚園・保育園との連携



▲グループで協力しておもちゃを作る



▲幼稚園児と一緒にゲームを楽しむ

田 原本小学校では、幼稚園・保育園と連携して取組を行っています。

幼稚園・保育園との連携は、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続できるようにすることを目的としています。

その一環で、毎年11月ごろに2年生が田原本幼稚園児、阪手・宮古保育園児、小学1年生などを招待して「おもちゃランド」を行っています。

この取組の目的は、入学前の幼児に小学校がどんなところか知ってもらうとともに、1年生と交流することとで下級生とのつながりを深めたりすることです。

児童たちは、どんなおもちゃを作るかグループで考え、招待状を書いたり、プレゼントを作ったりして、一生懸命準備をします。そして、遊び方を紹介しながら、パラシユートや空気砲などのゲームをして、楽しく交流しています。

幼稚園・保育園と連携することで、児童が幼児に伝わるような言葉遣いやかかわりを工夫したり、思いやりの心を育んだりして、自分の成長に気付く機会となっています。

田原本ふるさとかるたの活用



▲ふるさとかるたを群読する



▲ふるさとかるた大会で札を取り合う

南 小学校では、「田原本ふるさとかるた」を使った取組を行っています。

このかるたは、ふるさと田原本に愛着を感じる教育の充実を図るため活用されています。

3年生では、群読（複数の読み手による朗読）発表会を行っています。児童が夏休みにかかるたを覚え、全校児童の前で発表します。そして、群読発表会で覚えた知識を生かし、かるた大会を行っています。

また、田原本ふるさとかるたは社会科の学習の一環で、地域学習としても役立っています。

児童たちは、かるたを通して田原本の有名な遺跡などを知ることができ、楽しみながら学習しています。



▲田原本町観光ボランティアガイドの会「磯城のみち」の発案により作成された、手のひらサイズの「田原本ふるさとかるた」。有名な遺跡や伝統ある神社、お寺などを題材とした40首のかるたです。



▲全校集会で交流を深める



▲みつばち班での百人一首大会

みつばち班活動

主な活動内容

1 学期

● 1年生と遊ぶ会

1年生を中心にした自己紹介と名前を覚えるための遊び

2 学期

● オリエンテーリング

校区内の公園や神社への小遠足

3 学期

● 百人一首大会、6年生を送る会

平 野小学校では、縦割り班（異年齢集団）活動を通して問題解決の知恵を育む「みつばち班」活動を年間を通じて行っています。みつばち班は、全学年の児童で構成される1班20人程度の集団です。

この活動は、さまざまな体験を通して、自分のよさを生かし、多様な他者と生きることを通じて、自分に自信をもたせ、社会生活を送るために必要な資質や能力などを体得させていくことを目的としています。

児童たちは、この活動を通じて上級生や下級生の友達をつくったり、相手を思いやる心を育んだりして、集団生活の基礎・基本を学んでいます。

家庭・地域との連携・協働 で子どもを支える

今回は、それぞれの学校の特色のある取組を紹介しました。

どの学校の取組も、子どもたちの健やかな成長の支援になっていくと思います。

町教育委員会は、次のことを学校教育の指導方針として、家庭・地域との連携・協働を目指しています。

積極的な情報発信

幼稚園・学校は、保護者や地域



▲全校遠足で笑顔があふれる（東小）

住民の信頼と協力を得るために、教育内容や教育活動の状況及び学校評価の結果など、積極的な情報発信に努めます。

学校評議員制度の活用

幼稚園長・校長は、学校評議員に学校運営の状況を十分説明するとともに、多様な意見を聴き取り、保護者や地域住民などの意向を反映した学校づくりを進めます。

地域と共にある学校づくりの推進

町教育委員会は、幼稚園・学校や地域の実態を踏まえ、保護者や地域住民が幼稚園・学校運営に参画し、学校と協働して子どもの課題解決を図る「地域と共にある学校づくり」を推進します。

取材を終えて

各小学校を訪問し、特色のある取組を聞かせてもらいました。取材を通じて、子どもたちが楽しく学んでいる様子が印象に残り、多くの笑顔に出会えました。

これからも、子どもたちを家庭や地域で支え合い、協力して取組を進めていくことが大切だと感じました。